

01-005

学生の主体的取り組みによるアウトリーチ型子育て支援活動「出前講座（親子ふれあい遊び）」にみる支援の成果と課題

藤井 伊津子、栗田 喜勝

吉備国際大学 心理学部 子ども発達教育学科

【研究目的】 今日、地域社会全体で子育てを支援することが強く求められおり、保育者・教育者養成課程においても子育て支援力の育成及び大学としての地域貢献が課題となっている。K大学においては2015年度から教員と学生とが地域に出かけ、アウトリーチ型子育て支援活動「出前講座（親子ふれあい遊び）」を実施してきた。本研究は2019年度「出前講座（親子ふれあい遊び）」の成果と課題を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】 (1) 調査対象：2019年度K大学「出前講座（親子ふれあい遊び）」への参加保護者（母親）(2) 調査方法・期間：2019年度に6回・6会場で「出前講座（親子ふれあい遊び）」を実施。6回の「出前講座（親子ふれあい遊び）」終了時に会場で母親に質問紙調査を実施した。※質問紙調査にあたっては、毎回調査の趣旨について口頭で説明し、提出は任意であり、回答は無記名とした。

【結果と考察】 ※質問紙の回収率は97.9% (92/94人)であった。(1) 参加のきっかけ：[大学からの案内用チラシ (39.1%)]、次いで [母親クラブからの案内 (33.7%)] であった。(2) 会場への移動手段：[自家用車 (78.3%)] が主であった。(3) 出前講座への参加について期待したこと（複数回答）：[子ども同士の出会い (77.2%)] が最も多く次に [親同士の出会い：65.2%] であった。(4) 保護者同士の交流：[できた (53.3%)] であった。(5) 自由記述は62件あり、内容をグルーピングすると、好評価の内容が47件あり、内「活動内容」について、[満足感 (9)]、[プログラム内容 (8)]、[木のおもちゃでの遊び (6)]、[製作活動体験 (4)]、[環境・準備物 (2)]。「人との関わり」について、[子どものこと (6)]、[保護者同士こと (2)]、[学生のこと (7)]。「次回への参加要望 (3)」であった。一方、課題・要望の内容は14件あり、「課題」として、[環境構成 (2)]、[提供する児童文化財の選択 (4)]、[会の進行方法 (1)]、「要望」として、[プログラム内容 (4)]、[開催時間・回数 (3)] であった。「出前講座（親子ふれあい遊び）」は親子にとって非日常的な・もの・空間の出会いの場となり、期待されていることが明らかになった。今後の課題としてさらなる地域との連携、活動内容の充実が求められる。

01-006

子育て支援に関するニーズと子育て支援センター等の利用状況について—未就園児の保護者を対象とした調査より—

矢野 潔子

静岡大学 教育学部

【目的】

幼保連携型認定こども園における子育て支援は、園児の保護者に対する子育て支援と地域における子育て家庭の保護者等（以下、未就園児の保護者）に対する支援に大きく分けられる。本研究では、未就園児の保護者への子育て支援を推進するための資料を得ることを目的として、子育て支援センター等の利用状況および子育て支援に関するニーズを明らかにする。

【方法】

未就園児の保護者を対象として、Webを用いて調査を実施した。北海道、東北、南関東、北関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州の10地域に分け、各地域50名、有効回答数を500と設定し回答を求めた。

【結果】

女性323名 (64.6%)、男性177 (35.4%)、計500名から回答を得た。平均年齢は、 34.07 ± 6.45 歳である。回答者500名のうち、幼保連携型認定こども園や子育て支援センターで行われている子育て支援活動等に参加したことが「ある」と回答した者は280名、「ない」220名であった。

「ある」と回答した者が参加した活動としては、「子育て広場・イベントへの参加」が最も多く、次いで「子育てに関する相談や助言を得る」、「園庭開放や園舎開放による施設の利用」などであった。また、利用の理由としては、「子どもに家ではできない体験をさせたい」、「他の保護者や子どもと交流する機会が少なかったから」、「子育てに関する知識や情報を得たかったから」などがあげられていた。さらに、その施設を選択した理由としては、「無料だから」、「利用しやすい場所にある」、「子どもが喜ぶ・楽しめるから」、「専門のスタッフがいるから」などとなっていた。

一方、「ない」と回答した220名の理由としては、「今のところ必要性を感じないから」というものが最も多く、次いで「内容を知らないから」、「特に理由はない」となっていた。

【結論】

子育て支援センター等の利用経験者は46.0%、利用の経験がない者は44.0%となっていた。利用経験者の子育て支援ニーズとしては、イベントや体験といった子ども主体のもの、子育てに関する相談や助言、保護者との交流といった保護者を対象としたものに大きく分けられる。また、利用施設を選ぶ際は、無料であることや利用しやすい場所にあること、子どもが喜ぶ・楽しめるという活動内容が重視されていた。